

平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指 導	題名	リンドウ炭疽病の薬剤防除適期		
[要約] リンドウ炭疽病は、7月上旬頃から発生し、梅雨期間中に発病増加する。本病の薬剤防除適期は側芽が発生する期間（イーハトーヴォでは6月上旬～下旬）である。					
キーワード	リンドウ	炭疽病	薬剤防除	環境部 病理昆虫研究室	

1 背景とねらい

リンドウ炭疽病は茎の頂部が折れ曲った後に頂部が枯れる病害であり、これまでに本病の感染部位と伝染源およびこれらに基づく耕種的対策を示してきた（H17 試験研究成果書）。しかし、伝染源植物の「ニセアカシア」が多く植生している地域では、耕種的対策だけでは十分に防除することができない。また、近年、鉢物りんどう「いわて乙女」でも本病の発生が確認され、「ニセアカシア」が存在しなくても本病が発生する事例が認められている。そこで、本病の薬剤防除対策を確立するため、圃場内における流行様相を明らかにするとともに、薬剤防除適期を検討した。

2 成果の内容

(1) 圃場内における流行様相

例年、6月下旬～7月上旬に散在して発生する。7月以降、初発生した株内の茎および周囲の株に発病する。（図1）

(2) 薬剤防除適期

側芽が発生する期間である。「イーハトーヴォ」の場合、6月上旬から6月下旬にかけて7～10日おきに防除を実施する。（表1、表2）

3 成果活用上の留意事項

- (1) 農薬選択の際には平成22年度病害虫防除指針を参考にするとともに、使用前に必ずラベルを確認し、使用基準を遵守する。
- (2) 本成果は、本病の発生が多い中生種での試験事例である。晩生種や鉢物に発生する圃地では、本病菌の感染部位である側芽の発生期間に合わせて防除を実施する。
- (3) 鉢物りんどうでは、発病株を伝染源として降雨や頭上灌水を介して周囲の健全株にも伝染する。発病株およびその周囲の株は見つけ次第、圃場外に持ち出して別に管理する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 農業改良普及センター等の営農指導者

(2) 期待する活用効果

本病の被害が減少し、りんどうの安定生産に資する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H15-28) 地域特産農作物における新防除資材の実用化（H19～22）

6 研究担当者

猫塚修一

7 参考資料・文献

- (1) リンドウ炭疽病の発生生態と防除対策（H17 試験研究成果書）
- (2) 猫塚修一ほか（2005）岩手県におけるリンドウ炭疽病の発生特徴と伝染源 日植病報 71: 222

8 試験成績の概要

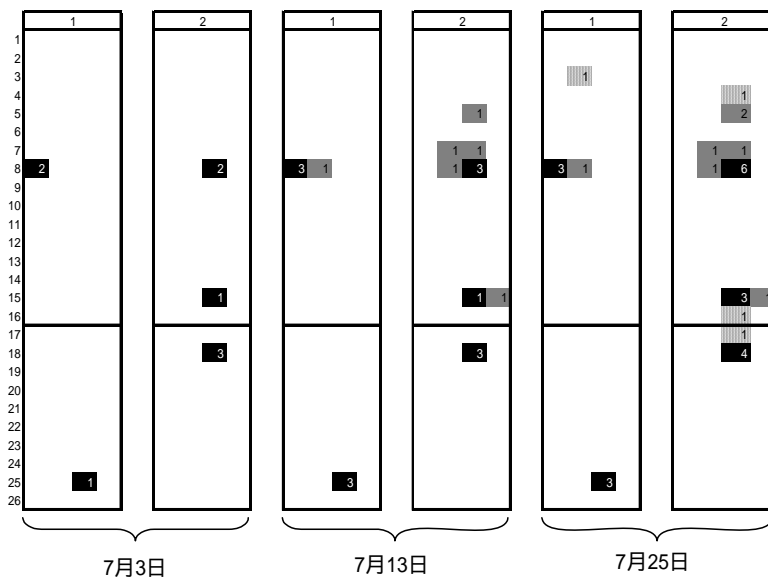


図1 リンドウ炭疽病の圃場内における発生分布の推移(2008年)
2畦について、リンドウネットの網目当たりの発病茎数を調査。図中の塗りつぶしは発病茎があった場所、数字は累積発病茎数を示す。試験区は、6月にベフラン液剤を3回散布し、7月はダコニール1000を散布した。発病茎は調査時に折り取り処分した。

摘要) 初発生した株を中心に発生量が増加する。いったん発生すると、薬剤散布しても十分な効果が得られない。

表1 リンドウ炭疽病の初発生前の散布¹⁾による各種薬剤の防除効果(2008年)

供試薬剤	希釈倍数	炭疽病の発生状況 ²⁾			
		調査株数	発病株率(%)	発病茎率(%)	
				7/15調査	7/29調査
ストロビーフロアブル	2,000	97	4.1	0.0	0.6
オーソサイド水和剤80 ³⁾	1,000	95	2.6	0.0	0.3
チオノックフロアブル	500	90	0.8	0.0	0.1
ベフラン液剤25	1,500	91	16.1	0.8	2.4

試験地:盛岡市農家圃場(例年多発生)、品種:イーハトーヴォ(4年生)

1) 散布日:6/4, 6/13, 6/20, 6/27(4回)

2) 調査期間の累積数。発病茎は見つけ次第折り取り処分した。

3) ベフラン液剤を加用

摘要) ベフラン液剤は、本病菌に効果がないため、無防除に相当。初発生前の薬剤選択が有効。

表2 リンドウの側芽発生期間に合わせた薬剤防除効果(2009年)

供試薬剤	散布時期 ¹⁾				炭疽病の発生状況 ²⁾			
	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	調査株数	発病株率(%)	調査茎数	発病茎率(%)
	(5/21)	(6/1)	(6/12)	(6/22)				
チオノックフロアブル					93	1.5	744	0.2
	×	×			95	4.2	763	0.9
			×	×	91	4.3	728	1.4
オーソサイド水和剤					93	2.5	747	0.4
ベフラン液剤25	×	×	×	×	95	9.1	757	1.7

試験地:盛岡市農家圃場(例年多発生)、品種:イーハトーヴォ(5年生)

1) :チオノックフロアブル(500), :オーソサイド水和剤(1,000倍,ベフラン液剤加用), ×:ベフラン液剤25(1,500倍)

2) 調査期間(6/22~7/22)の累積数。発病茎は見つけ次第折り取り処分した。

摘要) 側芽の発生する期間中に連続散布した区で防除効果が高い。当年はリンドウの生育が早く、側芽発生が5月下旬から始まった。